

2009 年度 小委員会活動成果報告

(2010 年 3 月 29 日作成)

小委員会名	情報社会デザイン小委員会	主 査 名：本江正茂 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：加賀有津子
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2011 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>汎用電子計算機の登場から半世紀が過ぎ、世界人口の半数にあたる携帯電話が使用されている今日、情報社会は既に日常である。とはいえ、絶え間のない情報技術の進歩や膨大な情報の発生流動という変化そのものが「日常」となる社会のただ中であって、人々の生活とその基盤となる建造環境は、このような情報社会とどのように応答していけばよいのか。「情報社会」と「デザイン」との関係について検討すべき課題はなお多い。「情報社会」の「ビジョン」を概観し「デザイン」へと向かったこれまでの情報社会デザイン小委員会の活動成果と反省を踏まえ、情報社会の生活や環境デザインの方法、それらを支える空間情報の利活用とマネジメントの技術、行動センシングなどを切り口として、「情報社会」と「デザイン」の関係について考える。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有り</p> <p>本江正茂 (主査・東北大学) 篠崎道彦 (芝浦工業大学) 沖塩荘一郎 (東京理科大学) 仲隆介 (京都工芸繊維大学) 渡邊朗子 (幹事・東京電機大学) 大友宏友 (日本大学) 小鷹義和 (ソニーファシリティマネジメント) 山代悟 (ビルディングランドスケープ)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>空間生命化デザイン研究WG：人の情報活動を支援し、情報技術と融合する建築空間の在り方を空間生命化ととらえ、その概念構築と具体化について研究すること</p> <p>生命環境モデルWG：地球環境・地圏生物圏も視野に入れた建築・都市・地域計画における生命環境の空間のモデル化</p> <p>ファシリティ・デザイン&マネジメントWG：ユビキタス社会にふさわしい“場 (ファシリティ)”に関する議論を行い、ファシリティのデザインからマネジメントに至る分野の研究</p> <p>行動センシングWG：行動センシング (RFID-Tag、センサー、GPS などを用いて、人間や組織の行動を把握する) を切り口として、行動と環境の関係を研究すること</p>	
2009 年度予算	186,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<p>1. 空間生命化デザインシンポジウム 2010 『同名資料』 参加者数 57 名</p> <p>2. 第 13 回ファシリティマネジメント・シンポジウム「知的活動のためのワークスタイルとワークプレイスの試み-3 -希望学の切り口から」 『同名資料』 参加者数 66 名</p>

<p>大会研究集会</p>	<p>1. 研究協議会：ワークプレイスづくりの実践と新たな方向性 『情報システム部門研究協議会資料：同上』 参加者数 121 名</p>
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. WG 再編成の初年度として、各 WG は活発な議論を開始した。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 全体会議を開催する機会が少なく、情報共有が十分でなかった。</p>
<p>その他</p>	